

松島本渡線埋蔵文化財（井辺遺跡第36次）

発掘調査 現地説明会資料

平成26年7月3日（木）午後1時30分～2時30分

和歌山市教育委員会

公益財団法人 和歌山市文化スポーツ振興財団

埋蔵文化財センター

井辺遺跡は、紀ノ川の南岸、福飯ヶ峯丘陵の北西に広がる沖積地に位置します。遺跡範囲は、南北約0.5 km、東西約1.0 kmの範囲に広がっています。これまでの調査では、弥生時代から古墳時代の住居や井戸などの集落、お墓、水田が見つかり、当時の景観が明らかとなり始めています。

1. 調査の概要

(1) 遺跡名：井辺遺跡

(2) 所在地：和歌山市津秦地内

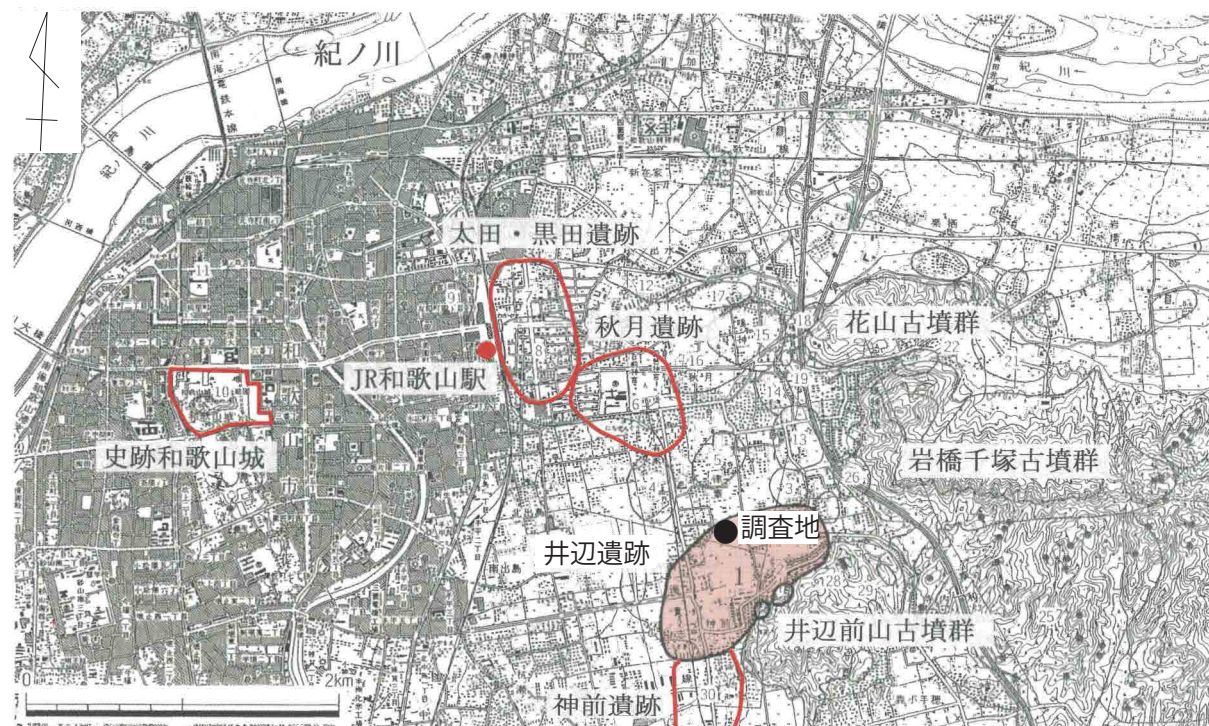
(3) 調査主体：和歌山市 建設局 道路部 街路課

調査指導：和歌山市教育委員会 文化振興課

調査機関：公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団 埋蔵文化財センター

(4) 調査期間：平成26年4月8日～継続中

(5) 調査面積：約630㎡

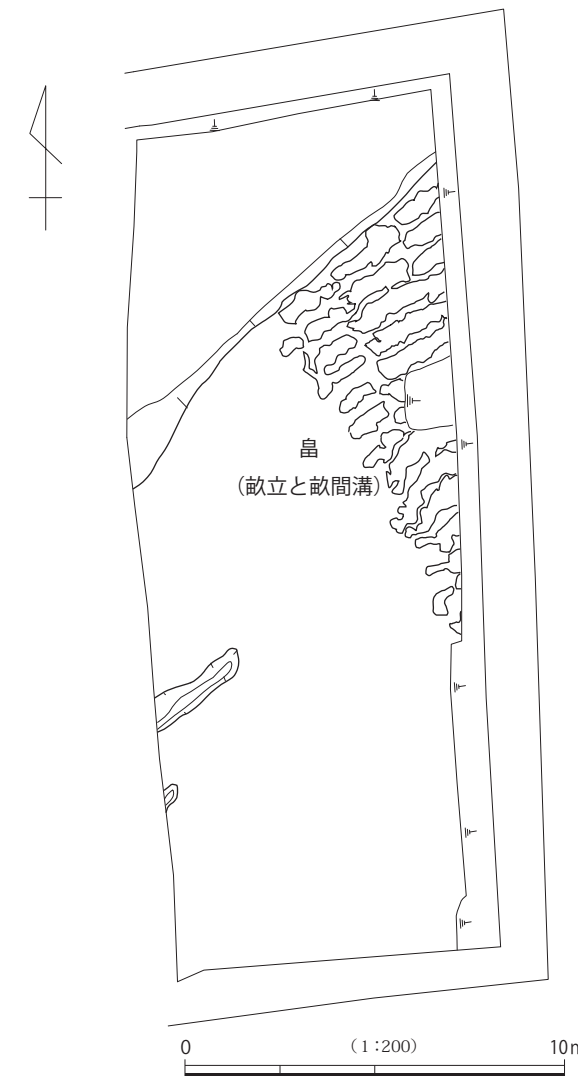


第1図 周辺の遺跡分布図

2. 調査の成果

弥生時代後期末から古墳時代前期の溝8条と畠が見つかりました。溝は3時期のものがあり、すべて北東から南西方向に掘られていました(第2図)。今回の調査での大きな成果は畠が見つかったことです。畠は後の時代の耕作などにより壊されてしまうことが多いのですが、調査地は洪水による砂で埋もれていたため、良好な状態で残っていました。畠は畝立がされており帯状に盛り上がっていました。その畝は0.5～0.6mの間隔をおいて11条並列し、畝と畝の間は溝状に窪んでいました。

今回の調査地の南において昨年度行った調査では同時期の水田が見つかり、その水田から北側に位置する微高地において畠が見つかったことで、当時の人々の土地利用も判ってきました。今後は畠の土壌を分析することで何の植物を栽培していたのか特定してきたいと考えています。



第2図 畠 平面図



写真1 畠が砂で埋まっている状況（南西から）



写真2 畠検出状況（南西から）
(写真奥に畠の盛り上がりが見られる)

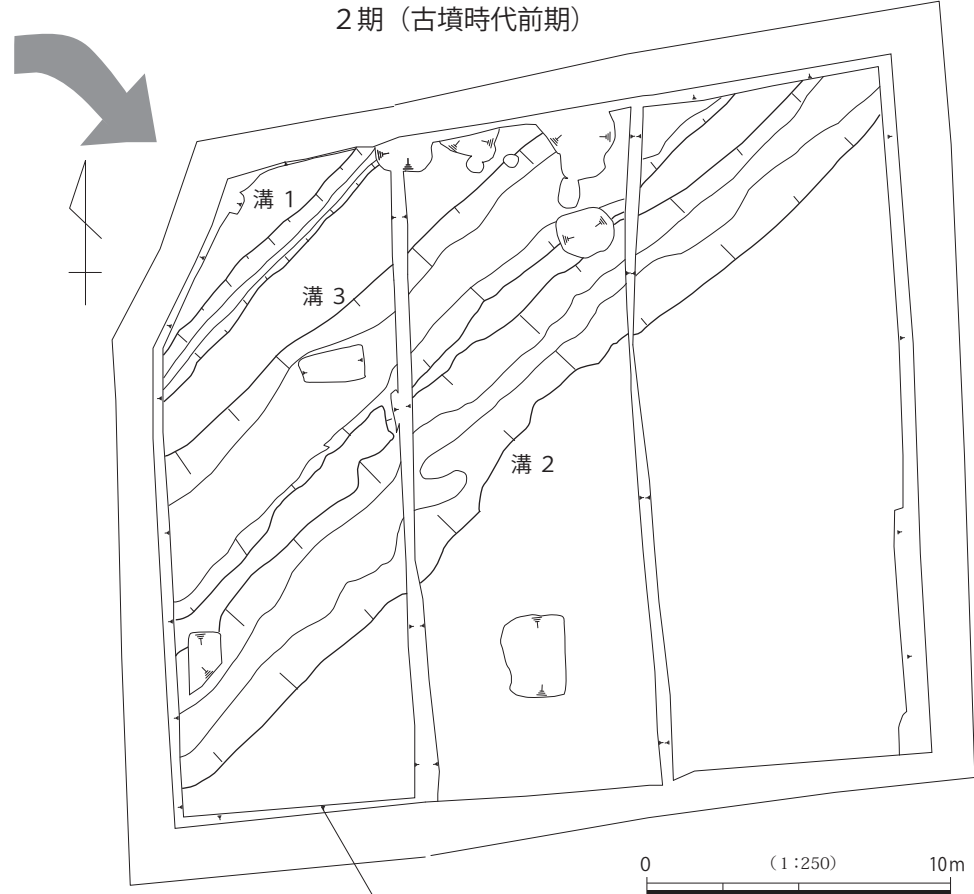
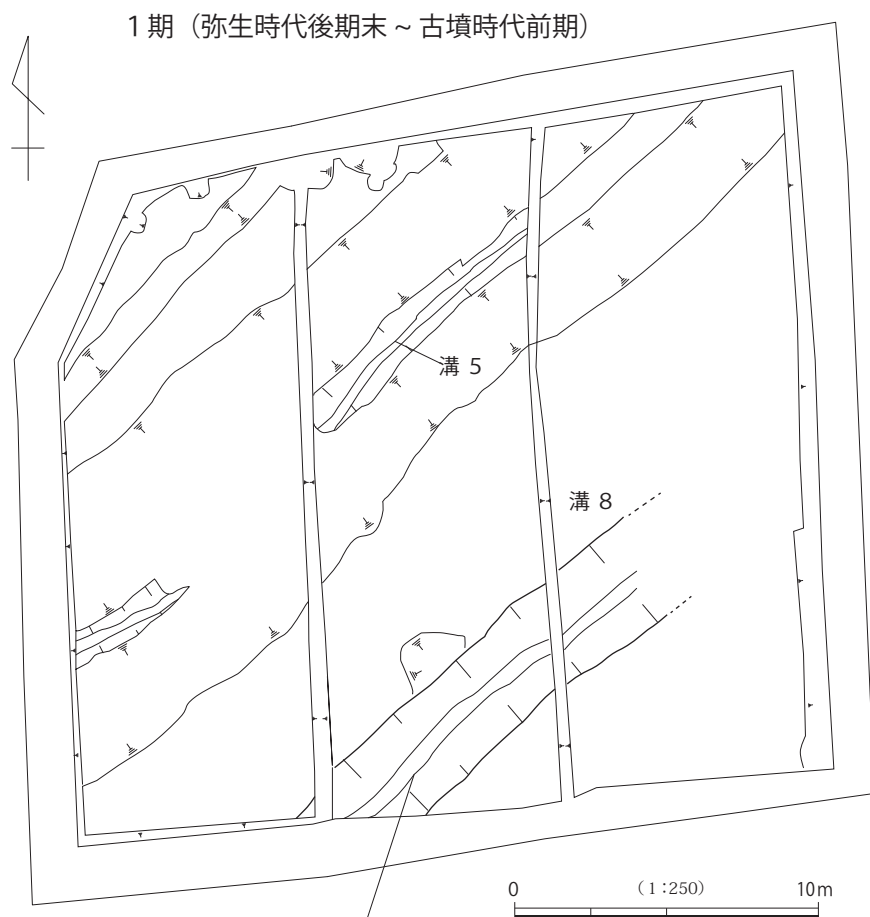
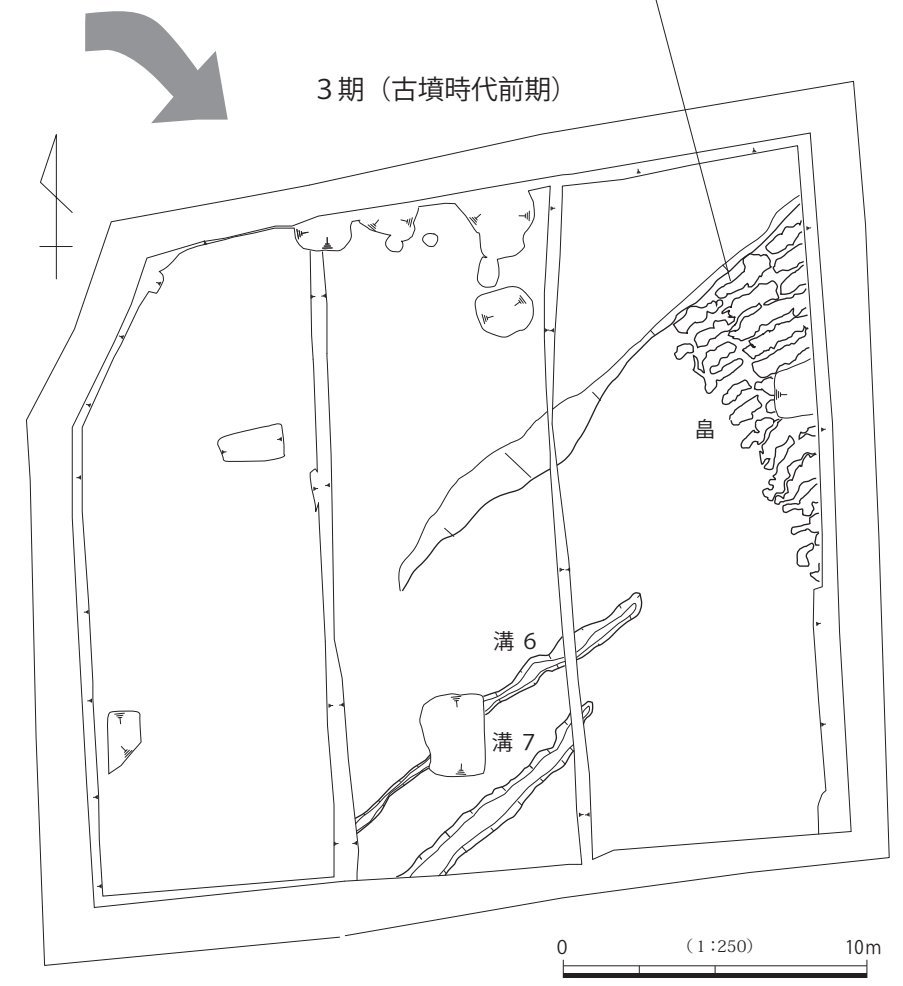


写真5 畠全景 (南西から)



第2図 今回の調査で見つかった溝や畠の変遷図



写真3 溝8全景 (南西から)



写真4 溝1～3全景 (南から)